



社長のための 経営雑学

第65号 平成27年8月 11日 (木)

発行：久保総合会計事務所
〒536-0006
大阪市城東区野江4丁目11番6号
TEL (06) 6930-6388
FAX (06) 6930-6389

新しい時代を切り拓く実践経営情報紙

■ ◆ 経営コラム

『お金の心配をしない経営を本気で実行しませんか！』
…経営安全度が2倍になる5つの行動指針！

資金繰りに悩む、経営者として一番つらい局面です。また、お金の苦労は、全く付加価値を生まない無駄な苦労です。できるなら、一生涯資金繰りに困らないように経営してください。

■ 経営安全度が2倍になる5つの行動指針！

1. 事業資金については、適時適量発想を捨ててください。適時適量発想は間違いです。

- ・『適時適量』×ではなく、『(資金)在庫過多』○で臨んでください。
- ・金融機関が有する傘はすべて『日傘』○です。『雨傘』×は、一本もありません。
- ・『資金は、借りられるときに借りられるだけ借りておきましょう。』
『借りたいときに必ず借りられる』保障はありません。

2. 損益計算書・貸借対照表の前に、近未来の資金繰り表を確認してください。

- ・『近未来の資金繰り表』をまず確認してください。
- ・損益計算書・貸借対照表は読めなくてもかまいませんが、近未来の資金繰り表は読んでください。簡単です。
- ・最低でも向こう6か月間の資金繰りは常に把握してください。

3. 近未来の資金繰り表を金融機関対応に活用してください。

- ・『早めに借りる、または、早めに返済を止める。』、心がけてください。
- ・金融機関対応のタイミングが総じて遅れがちです。数か月早めに手を打ってください。雲泥の差です。

4. 近未来の資金繰り表を経営判断に活用してください。

- ・『投資や費用の増加が近未来の資金繰りに与える影響』を資金繰り表で確認してください。
- ・『経営判断が資金繰りに与える影響』を、事前に想定してください。予見できます。
- ・計画は資金繰りを確認して最終判断してください。判断の礎を資金繰りにおいてください。

5. 中小企業も財務機能(金融機関対応機能も含む)を持ってください。

- ・創業間もない会社にも、財務の機能は必要です。
- ・自前の調達が無理なら、新・税理士である当事務所にご依頼ください。上記の1. ~4. に対して、最高のスキルを持って対応します。

※当事務所の『新・税理士』(=税務+財務+金融機関対応機能を有する)が貴社の財務部長を代行して、資金繰り表の番人、金融機関対応時の積極的説明補助機能を勤めます。税務顧問と併せて行うことで極めてリーズナブルに対応できます。

■ 多くの財務指数に惑わされないでください。

経営状態を把握するための財務指標はたくさんあります。すべて先人が見つけ出した意味のある指標です。ただ、それらをすべて理解して経営に生かすことは容易ではありません。

■ 近未来の資金繰り表に、財務戦略を集中させましょう。

繰り返しますが…

- ・向こう6か月先~1年先までの資金繰り表を作成しましょう。
- ・この資金繰り表の更新と精度アップに励みましょう。
- ・この資金繰り表を金融機関対応と経営判断の基礎資料・礎としましょう。